

平成30年度 大会特別規定 及び 競技上の注意事項 新人体育大会兼県民総合体育大会

日本中学校体育連盟軟式野球競技部特別規則にそって競技する

埼玉県中体連軟式野球専門部

【競技の実施に際し】

- 1 ルールについては、2018年公認野球規則並びに2018年（公財）全日本軟式野球連盟競技者必携、及び本規定による。
- 2 使用球は、（公財）全日本軟式野球連盟公認ナガセケンコーM号球とする。
- 3 使用器具は、（公財）全日本軟式野球連盟公認のものとする。
- 4 正式試合は7イニングから成る。コールドゲーム、特別延長戦については別に規定する。
- 5 試合開始時間については以下のとおりとする。ただし、第2試合以降は、試合開始時刻前であっても、前試合の終了20分後を目安に開始する。

【学校総合体育大会】

第1試合：8:30～ 第2試合：10:30～ 第3試合：12:30～ 第4試合：14:30～

【新人体育大会兼県民総合体育大会】

第1試合：8:30～ 第2試合：10:30～ 第3試合：12:30～ 第4試合：14:30～

【試合開始前】

- 6 部長・監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻1時間前または前試合4イニング終了時までに球場に到着し本部に申し出る。試合予定時刻になってもチームが球場に到着せず、連絡がない場合は棄権とみなす。但し、交通渋滞等による到着遅延は本部で協議し決定する。
 - 7 第1試合のメンバー用紙交換および攻守決定は、試合開始予定時刻の40分前とする。第2試合以後は前試合の4回終了時とする。監督と主将は、事前に渡されたメンバー用紙（5通、決勝は6通）を持参し、大会役員・担当審判員と打合せをする。
 - 8 決勝戦におけるダブルゲームの場合は、第2試合終了後から45分間を空け、開始時間の20分前にメンバー交換を行う。
 - 9 ベンチは、抽選番号の若い方を1塁側とする。（1塁側チームより放送係2名、3塁側チームよりスコアボード係2名を出す）部員が少なく補助役員が出せない場合は抽選時に申し出る。
 - 10 ブルペンでの投球練習は前試合の4回終了以後、室内練習場が有る場合は4回前より可。ただし、投球練習ができるのは先発バッテリーのみとする。
◎捕手はフル装備で投球を受けること。
 - 11 シートノックについては以下の通りとする。状況によって短縮、省略することもある。
 - ①後攻チームが先に行う。
 - ②時間は通告時より7分以内とする。
 - ③球場内での試合前の練習及びノックは登録選手以外に3名の補助員をつける事ができる。
 - ④補助員は、背番号のない試合用ユニフォームを着用し、スパイク、ヘルメットを着用する。
 - ⑤ノッカーは選手と同一のユニフォームを着用する。（サングラスは使用禁止）
 - ⑥マウンド及び周辺は使用しない。
 - 12 外野でのハーフバッティングは禁止とする。
 - 13 用具装具については、試合前に審判員または大会役員の確認に応じなければならない。
用具については、JSBB公認のものとし、破損等のないものとする。（補則参照）
 - ①ヘルメットについては、チーム同一のものとし、マークやイヤーカーバーの破損がないもの
 - ②バットについては、グリップテープのはがれや金属部分等の破損がないもの
 - ③キャッチャー用具については、面の金属部分が見えたり、プロテクターやレガースの部分破損がないもの◎バットの加工は禁止する。（テープでの補修、グリップ表面に装着する物 等）
- ※持ちやすくするためのグリップ補助具は、グリップの端から45.7センチを超えて加工してはならない。また、補助具は、必ず、上からグリップテープを巻くこと。

【試合中】

- 14 ファウルボールの処理については、ホームベースを挟んで1塁側と3塁側に区別する。
ボールボーイとバットボーイは、登録選手内で行い、ヘルメット（チーム同一でなくてもよい）着用を推奨する。

- 15 ベンチ内選手は20名（スコアラーは含まない）とし、背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す数字であり、全員が続き番号であること。
- 16 試合中の攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者や次打者、ランナーコーチは円陣に参加せず、速やかに所定の位置につく。
- 17 投手の準備投球は初回と交代時7球以内・他3球以内とし、時間は1分以内とする。
（球審が状況を考慮し投球数を決める。）
◎準備投球の際、捕手は正・控えにかかわらず、フル装備でボールを受けること。
- 18 走者のいる時に投手が球を持たないでプレートのすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとした時、即注意を与え球を投手に戻させる。
- 19 足を高くあげてのスライディングを禁止し、現実には妨害となったら走者をアウトにする。
- 20 ベンチ内でのメガホンの使用は監督に限る。
- 21 リストバンド、バットリング、マスコットバット、鉄棒、リストガード、サポーターの使用を禁止する。
◎手袋使用については白または黒の単色とする。
※手首等の負傷者が保護目的で使用するリストガード（手袋一体型も含む）については、2016年度の新人体育大会より禁止となっている。
- 22 野手の野球用サングラスについては、球審に申し出て許可を得る。（フレーム、レンズ共に黒色（ミラーの黒は不可））
- 23 突発的に事故が起き一時的に走者を代えたい場合は、球審に申し出て審判団が必要と認めた際は許可する。臨時代走は投手・捕手を除く打席前位者とする。
- 24 選手の交代については、監督が直接球審に申し出ること。
- 25 コーチは試合前のシートノックの時以外はベンチから出ないものとする。
- 26 選手以外はコーチーズボックスに入ることはできない。
- 27 スピーディーな試合進行をはかるために、ボックスを外したり無用なタイムは慎み、試合進行に協力する。ボール回しは、進行上禁止する場合がある。サインはバッターボックス内で確認する。
- 28 本塁打を打った打者に握手を求めるために、グラウンドに出てはいけない。
- 29 危険防止のため次のことを徹底する。
①バットリング、鉄棒等の球場への持込を禁止する。
②足を上げてのスライディングは禁止し、現実には妨害になった場合は走者をアウトにする。
③体当たりや代表されるようなラフプレーを禁止する。
④危険防止のため、極端な前進守備を避けるよう徹底する。極端な前進守備とは、一・三塁手は塁間の半分、二・遊撃手は、一・三塁ベースと投手を結んだところより、投手が投
- 球**
でリリースする前には出てはならない。
- ⑤捕手のマスク・レガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガード・ファウルカップと、打者と走者、ベースコーチは、打撃用両耳付きヘルメットを必ず着用すること。また、ハイカットストッキングの使用を禁止する。
- ⑥規則7・06（a）【付記】（捕手のブロック）の適用について、中学野球では、『ボールを保持しているときしか塁線上に位置することはできない』こととする。
- ⑦規則6・01（i）「本塁での衝突プレイ」を追加する。（2016年より）
- 30 規則適用上の疑義の申し出ができるのは、監督と当該選手とする。この場合は要旨を端的に述べ、試合進行や大会運営に支障をきたさぬよう留意すること。
- 31 走者・ランナーコーチ・ベンチから、球種などを打者に知らせるためのサインを出すことを禁止する。
- 32 次打者席には必ず次打者選手がいること。投手が投球動作に入ったら低い姿勢をとることはしなくてよいが、素振り等はしないこと。
- 33 試合中に雷が発生しそうになった場合には、大会本部と競技部の判断により状況によっては試合を中断し再開を検討する。
- 34 試合は5回で成立するが、降雨、その他の事情で試合続行不可能になった場合は、特別継続試合を適用する。なお試合成立後の降雨等によるコールドゲームの得点の扱いは、全て均等回の得点とする
〔特別継続試合の再開について〕
(1)もとの試合の中断された箇所から再開する。
(2)両チームの出場者と打撃順は試合が中断された時と全く同一でなければならない。ただし、規則によって認められる交代は許される。
(3)もとの中断された試合に出場して、他のプレーヤーと交代し、その試合から退いたプレーヤーは再開される試合に出場することはできない。
(4)再開の際は、試合開始と同じように整列・あいさつを行う。
(5)グラウンドを変えて再開するとき、および日にちを変えて行う場合は原則としてシートノックを行う。

35 コールドゲームの適用は5回以降7点差とする。(決勝戦もコールドゲームを適用する。)

36 延長戦はなしとし、次のような特別延長戦を行う。(学校総合体育大会は延長9回まで、決勝戦は12回以降特別延長戦を実施)

【特別延長戦】

7回終了後「継続打順」で、前回の最終打者を一塁走者、二塁、三塁の走者は順次前の打者とし、無死満塁の状態にして1イニングを行い、得点の多いチームを勝ちとする。なお、勝敗が決しない場合は、以後継続打順でこれを繰り返すこととする。なお、通常の延長戦と同様に、規則によって認められる選手の交代は許される。

37 「公認野球規則」の適用および不適用項目についての取り決めは別紙参照。

【試合後】

38 試合終了後の挨拶で全てを終了とし、次の試合のためにベンチを速やかにあける。

39 各チームの部長または監督は、球場を去る前(試合終了の30分以内に)大会本部に連絡し、次の試合日程や連絡事項などの確認を行うこと。

【その他】

40 監督・部長等の規定、服装等については次の通りとする。

① 監督・部長は教職員であり、コーチ(外部指導者も含む)は成人とする。双方、選手と同一のユニフォームを着用し、監督は30番の背番号を付ける。コーチ(部長も含む)は、28番・29番を付ける。ベンチ入り指導者(教職員、外部指導者)は最大3名とする。ただし、外部指導者は1名とする。学校長は、これ以外にベンチに入ることができる。

② ベンチ入り指導者は、選手と同じ色(黒)のスパイク(アップシューズ可)を履くこと。

③ 部長の服装は、監督と同じか、平服(ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツ)でも

よいが、選手と同一の帽子を着用する。ただし、女性の場合、服装は考慮する。

④ ベンチ入り指導者は、サングラスを使用しない。

◎ 監督・コーチも選手同様、アンダーソックス一体型のソックスは着用しない。

41 選手の髪や身なり等は中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合後においてもスポーツマンらしくマナーについては充分留意する。

42 ユニフォームの着用にあたって次の点を注意する。

・ 上着の裾を出さないことはもちろん、たるませず、ベルトが見えるようにする。

・ パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。

・ 肩の部分をたくし上げない。

43 雨天時による大会実施可否の判断及び日程変更については、大会本部で決定する。(決定は、試合当日の第1試合開始2時間前に行う。)

44 雨天判定についての、意義申し立てには応じないこととする。

45 選手は事故防止のため、ハイカット・アンダーソックス一体型のストッキングは禁止する。捕手はレガース・ヘルメット・マスクのスロートガード(マスク一体型も可)・プロテクターは必ず着用すること。また、急所カップを着用する。

打者・走者は両耳付きヘルメットは必ずかぶること。ランナーコーチも両耳付きヘルメットを着用すること。(チーム同一のもの)

46 応援団は次の禁止事項を守り、各チームの監督・部長が責任もって指導する。

① 紙吹雪・テープ・個人名を書いた、のぼり等を禁止する。

② 相手チームをやじったり、相手チームに不利を招くような応援をしない。

③ 応援席周辺を散らかさない。ゴミ等は、必ず持ち帰る。

④ 太鼓等の鳴り物やブラスバンドの応援を認めるが、自チームが攻撃している場面での応援とする。

⑤ 拡声器や音響機器の使用は禁止する。

⑥ スタンドや客席にテントやビーチパラソルを設置することを禁止する。

⑦ 球場の設備を傷つけたり、ゲームを妨害するような応援はしない。

(ペットボトルをたたく応援は禁止する。)

47 テーピングをする場合は、露出する部分については肌の色に近いものを用いる。投手は、投球時にボールに触れる部については禁止する。

48 1チームの編成は、部長(引率責任者)1名、監督1名、選手20名以内(スコアラーは含まれない)とする。コーチ(外部指導者)が必要な場合にはこの他に1名追加することができる。校長はこれ以外にベンチに入ることができる。また、スコアラーは生徒とする。

埼玉県大会・競技に関する注意事項

埼玉県中体連軟式野球専門部

- 1 雨天時の大会実施可否については、大会本部に問い合わせる。（競技部・総務部）
- 2 特別規定と注意事項を把握し、試合進行に協力する。
- 3 スピーディーな試合を心がけ、攻守交代は駆け足で行う。
打者はみだりに打者席を外さない。サインは打者席より見る。投手は打者が構えてから投げる。投手は捕手のサインを見る時に、プレートに軸足をかけ、投げる方の手でボールを握り体側につけること。
- 4 試合中、次打者は投球練習中の捕手の後ろで球筋を見てはならない。次打者以外はベンチを外れて素振りをしてはならない。
- 5 本塁打を打った走者に握手を求めため、グラウンドに出てきてはならない。
（ランナーとコーチーとの接触は許されていない。）
- 6 中学生らしくない危険なプレーや態度は絶対に慎むこと。厳重に注意する。
例) ①ボールを持ってタッチしようとする野手に対して、故意の体当たりやスパイク禁止。
②ベースの内側で待って走塁のじゃまをするなど危険な行為。
③ボールを持たない野手の空タッチ。
④ヘルメット・バット投げ、ベース・競技場施設の蹴飛ばしなど。
- 7 選手の身なりは、中学生らしくさわやかにする。試合中だけでなく試合の前後もスポーツマンらしいマナーを心がけよう。
- 8 攻守交代の際、投手またはプレートに近い野手がボールをピッチャーズプレートに置く。
- 9 守備の始めの掛け声は手短かに、捕手はキャッチャーズボックス内より、野手は定位置より。
- 10 グラウンド整備は両校で協力し、ファウルグラウンドまで速やかに行う。
- 11 悔しい気持ちをマナーをわきまえず、バットを投げつけたり、土をけとぼしたりしない。
- 12 勝利チームは敗者チームの健闘をたたえ、代表校として相応しい態度で次の試合に臨む。
- 13 雷が発生した場合は、試合を一時中断する。
- 14 ブルペンの使用は注意事項に従い、使用後は必ず整備する。
- 15 グラウンド以外、スパイクでの歩行を厳重に禁止する。
- 16 ウォーミングアップの場所は本部の指示に従う。
- 17 試合後のゴミ、昼食のゴミ、空き缶、タバコの吸殻など使用した場所にゴミを残さない。
- 18 競技中の健康を考え、水分の補給などに注意する。熱中症、脱水症など命に関わることもあるので、体調不良の場合は無理をせず球審に申しでる。
- 19 次のような捕手の行為は審判員の判定を欺いたり、審判員を侮辱する行為に相当するので、謹むよう指導してください。
①捕手が投球を受けた時に意図的にボールをストライクに見せようとミットを動かすこと。
②捕手が自分でストライク・ボールを判断するかのように球審がコールをする前に捕球するや否やミットを動かして、すぐに返球態勢に入ること。
③球審のボール宣告にあたかも抗議するかのようにしばらくミットをその場に置いて置くこと。

埼玉県大会・大会運営上の注意事項

埼玉県中体連軟式野球専門部

- 1 ゴミ処理について
代表者会議の際に厳重に注意しているが、弁当・ジュースやビールの缶・タバコや弁当などのゴミが置き去りになったりして、大会運営上の大きな問題点となっている。
あらかじめ、各校・各チームで大きなゴミ袋を用意し、必ずゴミは持ち帰ることを、顧問・監督より生徒と保護者にご指導下さい。尚、好ましくない学校・チームには、電話連絡致します。
- 2 トイレの使用について
大会本部関係者がトイレ掃除を行っているが、特に女子トイレの使用状況は大変困ります。「公衆トイレ」のマナーを心掛け、汚いトイレにならないよう御協力下さい。
- 3 駐車場について
 - ・ 県営大宮公園球場利用の際は、大宮公園内の駐車場を使用することを原則とし、競輪開催の場合は混雑するので、大宮第2公園の駐車場を使用することになります。
 - ・ その他の球場を使用する場合は、各会場毎の注意事項に従ってください。
 - ・ 満車、駐車場所での保護者とのトラブルが、毎回ありますので、顧問より注意事項の徹底を図ってください。
- 4 試合前、後の注意事項
 - (1) . ウォーミングアップについて
特別な場所はありません。県営大宮公園球場については、スタンド入口付近の広場において、ランニング・ストレッチ体操のみ可能です。
その他の球場を使用する場合は、各会場毎の注意事項に従ってください。
 - (2) . グランド内でのアップについて
内野の使用は禁止。1塁線・3塁線は絶対に踏まないよう厳重に注意して下さい。
外野の芝生の上でスパイク(アップシューズの場合もあり)を履いてアップして下さい。
ベンチ前でのノックは、コーチャーズボックスのラインを踏まないよう注意して下さい。終了後は、必ずトンボ掛けを行って下さい。
* 外野でのハーフバッティングは禁止とする。
 - (3) . 投球練習について
 - 試合前の投球練習は、ブルペンで行って下さい。(先発のバッテリーのみ)
 - 県営大宮公園球場は室内のブルペンを使用しますが、ベンチからブルペンまでの通路は、スパイクでの歩行は禁止となっています。
 - キャッチャーは防具一式を必ず着用すること。
 - 使用後は必ず整備して下さい。
 - 第2試合以後は、前試合の4回終了後より投球練習可能。ブルペン使用前・使用後に、必ず本部席に報告して下さい。
 - 各球場の使用規定に従ってください。
 - (4) . 応援団は次の禁止事項を守り、各チームの監督・部長が責任もって指導する。
 - 紙吹雪・テープ・個人名を書いた、のぼり等を禁止する。
 - 相手チームをやじったり、相手チームに不利を招くような応援をしない。
 - 応援席周辺を散らかさない。ゴミ等は、必ず持ち帰る。
 - 太鼓等の鳴り物やブラスバンドの応援を認めるが、自チームが攻撃している場面での応援とする。
 - 拡声器や音響機器の使用は禁止する。
 - スタンドや客席にテントやビーチパラソルを設置することを禁止する。
 - 球場の設備を傷つけたり、ゲームを妨害するような応援はしない。
(ペットボトルをたたく応援は禁止する。)
 - (5) . 試合経過および結果の問い合わせについて
各球場への試合経過および結果の問い合わせはできませんので、保護者・生徒への連絡徹底を図ってください。

*** 保護者へ『注意事項』を厳守するよう徹底を図ってください。**